

母に感謝、亡き父に会いたい

熱海市遺族会 米山 勉

私は昭和19年6月1日生まれ、父は昭和19年9月19日ビルマ（現ミャンマー）のインパール作戦に参戦、マラリアにかかり戦病死したと知らされています。私が誕生して100日目のお祝いの写真を戦地に送ったようですが届いたかは不明です。父が昭和19年4月戦地へ行く前、母は最後の面会のため奈良まで行きました。姉6歳・次女3歳・私がお腹に（6か月目）宿していた時です。

母は生前良く父の話をしてくれました。父は網代の定置網船の機関長でした。お酒はあまり飲まなかったようですが、陽気で甘いものが好きで特に羊羹を好んで食べたようです。地元の祭りでは仮装をして周りの人達を楽しませました。そんな父に会いたいなと感ずることが多々ありました。

父の戦死後、母は大変苦勞して私達三人の姉弟を育ててくれました。魚・履物・衣類の行商、そして菓子製造工場勤務など母は懸命に働きました。私が小学校入学時、近所の同級生が肩掛け鞆を得意そうな顔をして自慢しているのを見て羨ましく思いました。母は入学前日まで行商に出かけ、入学日当日の早朝に肩掛け鞆を購入し入学式に間に合わせてくれました。私はこのような母の苦勞に報いるため、将来は大工になり家を建てる事を心に誓いました。その後大工は断念しましたが、高校卒業後地元の金融機関に就職、昭和44年に家を新築することが出来、母に喜んで貰いました。母は6人の孫に囲まれ、平成8年8月14日に82歳で亡くなりました。

母には私を一人前の社会人に育ててくれた事に感謝の気持ちで一杯です。母の死後私は網代地区遺族会の役員となり、平成24年からは熱海市遺族会長となって現在に至っています。会員減少に歯止めがかからない現状ですが、何とか維持できるよう事務局と常に連絡を取り合い、熱海市遺族会が存続できるよう努力してまいる所存です。（令和3年4月発行の静岡県遺族会報より）